



はつた

●医療法人創和会広報誌はつた / 発行 医療法人創和会 理事長 重井文博
令和2年12月1日発行

研究所附属病院 41 周年 開院記念日を迎えて

～新型コロナを乗り越えて、さらなる成長を遂げる～

重井医学研究所附属病院 院長 真鍋 康二



「大病」のように降りかかってきた「新型コロナウイルス」

私たちが病院という職場で業務を行なう過程では、大病を乗り越えた患者さんの貴重な言葉を聞くことがあります。「病気を経験したことはとてもつらいことだったけれども、とても大切なことを学んだ機会であった気もする。病気になって、それを乗り越えて元の生活に戻ることができてとてもうれしい。でも、この経験を生かして病気にかかる前よりもっと成長した自分になったような気もするし、これからの人生をより充実させるために生かしていきたいと思っています」。

私たちの病院が開院 41 周年を迎えた 2020 年は「新型コロナウイルスのパンデミック」という試練に見舞われました。最初の問題は、業務中に患者さんにうつすのではないかと、自分自身が感染するのではないかと、自分から家族にうつすかもしれないという漠然とした不安でした。業務上の感染防護のために細心の注意を払わなければならないことが疲労感を高めました。

このウイルスの感染経路、重症度などが次第に明らかになってきて対応手段が明らかになり、漠然とした不安は減ってきましたが、このとき気付いたことは、業務量が増えたにもかかわらず患者数が減少したことによる経営状態の悪化でした。

新型コロナウイルスは業務負担の増大と経営状態の悪化という両方の逆境を病院にもたらしました。

「逆境」を乗り越えて成長することを目指す

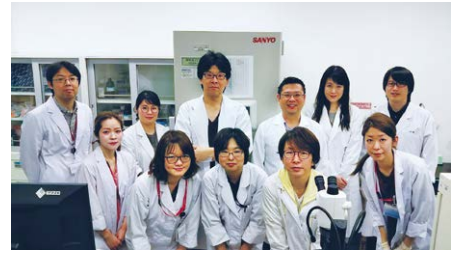
私たちが「新型コロナウイルスの逆境にどう対応するか」を考えると、「大病」を乗り越えた患者さんのように、ビフォー・コロナに戻ることを目的とするよりも、今までの考え方やシステムを進化させて、新たな段階へ成長をすることが求められています。

「新型コロナウイルスは私たちに何を教えようとしているのか、どう成長しないといけないのか」を考えるいまの時期に必要なことは、すべての職員が病院の基本方針である「知識・技術を向上して敬意をもって協力し合い、チーム医療を実践します」を達成することです。新型コロナのために研修を受けにくかった若手職員、今回の課題に対してさらなる成長を期待される中堅職員、より深い考え方への進化を求められるベテラン職員、すべての世代の職員が成長して、世代を越えて助け合うことが、間違いなく病院の成長に結びつきます。

「生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に」の理念のもとに今まで同様に、今後も頑張って歩んでいきましょう。

松山 部長がノーベル化学賞「ゲノム編集」について語る

～朝日新聞にインタビュー記事が掲載～



▲鳥取大学での講習会の様子

分子遺伝部門の松山誠部長のインタビュー記事が、10月22日(木)の朝日新聞朝刊に掲載されました。松山部長に今年のノーベル化学賞を受賞した「ゲノム編集」に関する解説や、重井医学研究所分子遺伝部門における研究活動について話を伺いました。

ゲノム編集技術は研究・医療の大革命！

「今年のノーベル化学賞を受賞した「ゲノム編集」について教えてください。」

(松山) ゲノム編集とは、遺伝子を「自由に」改変することができる技術のことです。これまで遺伝子の改変は、マウスなど一部の生物のみ可能でした。しかし、ゲノム編集の発見によって、すべての生物の遺伝子改変が可能になったのです。

21世紀の大発見であるゲノム編集技術は、研究の世界だけでなくとどまらず、農業・漁業・医療などさまざまな分野でも注目されています。例えば、これまでの品種改良は、交配によって遺伝子改変を「偶発的に」起こさせるのに対し、ゲノム編集は、目的の遺伝子を「狙って」改変させることが可能です。今後は、ヒトへの医療への応用も含めた幅広い議論が始まると思います。

重井医学研究所はゲノム編集の最先端技術をもっています

「重井医学研究所ではゲノム編集技術で最先端の研究を行なっているようですが、具体的に教えてください。」

(松山) 2018年4月、重井医学研究所分子遺伝部門は、受精卵を体外に取り出さずにゲノム編集ラットを作製できる手法、rGONAD法の開発に世界で初めて成功しました。この技術の開発により、マウス以外の哺乳類のゲノム編集が「より簡便」にできるようになりました。将来的にはこの技術を使って、現在の医学では完治が難しい遺伝病の治療法が「より安全」に行なうことが可能になるかもしれません。重井医学研究所では腎不全になる遺伝病モデルラットを作製し、その病態の進展に関する研究や治療法の開発に役立つ研究を行なっているところです。

鳥取大学医学部の客員教授に就任

「ところで、松山部長は2020年10月から鳥取大学医学部染色体工学研究センターの客員教授に就任されたようですが、その経緯や今後の研究活動について教えてください。」

(松山) 鳥取大学医学部とは、2018年頃から共同で行なっています。具体的には、重井医学研究所が開発した「リンパ節法を用いたモノクローナル抗体作製技術」と鳥取大学医学部が開発した「哺乳類における染色体工学技術」の融合を目指した研究です。これまでにシンポジウムや講習会などで鳥取大学医学部にお伺いする機会がありました(写真)。今後、鳥取大学との共同研究がより発展的なものとなるために、10月から鳥取大学医学部染色体工学研究センターの客員教授を兼任することとなりました。今後は、鳥取大学との共同研究やモノクローナル抗体技術などを深化させていくことで、抗体医薬など医学研究・開発の発展に寄与できれば、と考えています。

最後に松山部長から「今回の新聞記事の掲載は、研究所・附属病院をアピールする機会になったと思います。今後も研究活動を通じて、医療法人創和会全体の発展に貢献できればと考えています。」とコメントをいただきました。今後も松山部長のますますの活躍が期待されます。(井上)

▲2020年10月22日朝日新聞朝刊

ご存じですか？心臓リハビリテーション

しげい病院 リハビリテーション部 主任 井本 洋史

心臓リハビリテーション

しげい病院では、2013年10月より心臓リハビリテーション外来（以下心リハ外来）を開始しました。運動療法や栄養管理、服薬指導からカウンセリング・生活指導まで、多職種で協働して取り組み、毎週木曜日にはカンファレンスを行ない情報共有に努めています。

しげい病院心リハ外来の強みは、心肺運動負荷試験（CPX）が自院で行なえることです。心機能を知る上で重要な検査であり、この結果で日常生活の活動強度を決定していくことになります。

心リハ外来は今年で7年目を迎え、これまで延べ239名の紹介をいただきました。

地域に向けた啓蒙活動

我々心リハチームはこれまで、院外での活動にも力を入れてきました。

「心不全地域連携の会」へは毎月参加し、病々・病診連携を図っています。

「健康講座」は、はあもにい倉敷で講座とウォーキングを行ない、健康管理の重要性を伝えています。

岡山県の協力のもと「岡山ハートフルウォーキ

ング」も毎年開催しており、一昨年はしげい病院が幹事となり、100名を超える参加者と一緒にノルディックウォーキングを楽しみました。

「おかやまマラソン2019」では医療ボランティアとして参加することができました。

これからの心リハ

2017年の「急性・慢性心不全診療ガイドライン」で心不全は進行性の疾患であることが明記されました。症状の進行を遅らせ、再発を防ぐためには疾病管理の継続が重要となってきます。しかしながら、心リハを実施する医療施設の数は少なく、また医療施設において長期的な支援を行なっていくことには限界があります。

現在はあもにい倉敷では、しげい病院心リハ外来と提携し、「心臓リハビリテーションメディカル講座」を開講しています。医療施設で疾病管理・教育指導を行なったのち、民間運動施設で運動を継続していきます。医療施設と民間施設の連携が“これからの心リハ”の新たな形になると考えます。

しげい病院&はあもにい倉敷の連携が、新たな心リハのロールモデルになるよう、心リハチーム一丸となって頑張っていきたいと思います。



▲岡山ハートフルウォーキング（2018年）



▲はあもにい倉敷での講座の様子



▲カンファレンスの様子



▲心リハ外来の様子

この人紹介 !!

多田 蘇音先生をご紹介します！
9月から研究所附属病院に勤務されています。

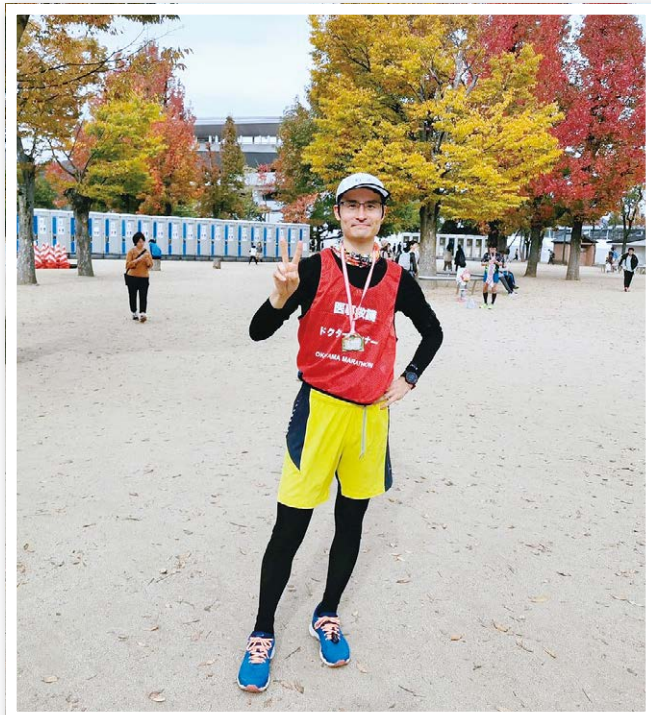
Q 1. 医師になろうと思ったきっかけを教えてください。

元々は東京理科大学薬学部を卒業し東京大学の薬学修士課程を終え、製薬会社で新薬の臨床開発の仕事をしていました。藤沢薬品時代では、免疫抑制剤のプログラムの徐放性製剤の臨床試験、そして、アステラス製薬に勤務時は、糖尿病薬のスーグラの臨床開発に携わってきました。

臨床開発の仕事をしている中、新薬の開発にはもっと医学の知識が必要であると痛感したことが、直接医師になろうと決めた大きなきっかけでした。

Q 2. 研究所附属病院を選んだきっかけ、そして、どのような医師になりたいか教えてください。

祖父が糖尿病で治療をしていたため糖尿病治療に思い入れがあり、そして、今まで研究開発の中でも奇しくも糖尿病と深い縁がありました。まず、糖尿病領域に興味を持つようになり、また、糖尿病から糖尿病性腎症や血液透析まで進展される方が多く、糖尿病のみならず、腎臓病や血液透析についても更なる修行をしていきたいと思うようになりました。



そんな中で、大学の教授や先輩たちに相談したところ、県下一の透析実績を誇り、国内でも屈指の透析病院、そして、職員のQOLや勤務環境、福利厚生も重視する研究所附属病院を力強く勧められました。本当にご縁と感謝を感じながら、9月から勤務になりました。

これから、多岐にわたる透析様式、透析における全身管理、バスキュラー・アクセスの管理、合併症の予防と管理など透析に関する各種の専門知識と経験を学んでいきたいと思っています。

将来、生活習慣病をはじめ、糖尿病、腎臓病、血液透析などについて全身管理できるようなプロフェッショナルな医師になりたいと志しております。

Q 3. 休日の過ごし方を教えてください。

運動が好きでマラソンや自転車や水泳など休日は体を動かすことが多いです、毎年、岡山マラソンにドクターランナーとして参加しております。最高記録は、3時間57分でした。研究所附属病院にマラソン部があると知り、今後、是非機会があれば、一緒にランニングの練習をしたり、病院を代表してマラソン大会に出場したいと思います。

最近、子供が生まれましたので、家で育児や家事をして妻と協力してやっています。ミルクを作ったりおむつを替えたりと子育ての大変さを感じていますが、楽しみでもあります。仕事と育児を両立できるように、今後ますます仕事を精進していきたいと考えております。

Q 4. 今後の抱負について教えてください。

任せられていることをきちんとこなし、糖尿病、腎臓病、透析の総合的な知識を臨床の場で経験を積みたいと思っています。

地域医療に還元できるように励んで大きく成長をしていきたいと思っています。

2 病院の交流会を行ない、 学びを深めました

創和会本部 人事部長 亀山 愛

創和会では、しげい病院・研究所附属病院の2病院の役職者が情報交換で学びを深める交流会を2013年から原則年2回行っており、今回で13回目となりました。

交流会の目的は、「2病院間の良い面を吸収し合い、足りない面に気付くこと」、「グループワークで意見を述べ他者の考えを聞き、これらの過程を通して自己の役割遂行について振り返る機会を持つこと」、「役職者としての成長および組織の活性化につなげること」等です。

今年度上半期に予定していた交流会は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け残念ながら中止としました。今回は、マスク着用は当然のことですが、対象を部署（部門）長のみならず、会場はしげい病院のかわせみホールと職員食堂を使用し、1グループあたりのテーブルを大きくすることで密を避け、10月27日（火）に開催しました。



▲交流会の様子

交流会では、テーマに基づきグループワークを行ない、今回は「行動評価について」としました。行動評価は、創和会職員として求められる行動と照らし合わせ、自身の行動の長所・短所を認識することで、行動の自己改革を促す仕組みです。今回は、「こんな職員に成長してほしい」という期待像について、参加者それぞれが実際のエピソードを紹介しながら意見交換を行ないました。会場からは、「状況に応じて的確」「誰に対しても」「先読みして」「周囲を巻き込んで」「一歩踏み込んで」等のキーワードが飛び交っており、参加者にとって有意義な時間になったのではと感じました。

今後も、法人内に2病院があることの強みを生かした交流会を継続していきたいと考えています。

2021年の医療安全標語が 決定しました！

しげい病院 栄養管理部 室長 秋山 恭子

昨年は11月に入ってから医療安全標語の募集だったため、標語の決定からカレンダー作成まで慌ただしく、各方面にご迷惑をおかけしたことを踏まえ、今年は9月からポスターを掲示して医療安全標語を募集しました。

語呂合わせや岡山弁を使ったもの、コロナ関連のワードを取り入れた標語があり、各部署から計60題が集まりました。リスク部会のメンバー18名で13題（院長賞とカレンダー12カ月分）を選び、その中から院長に院長賞を選んでいただきました。

今回は、検査健診部の標語「お互いに 密にするのは 報・連・相」が見事院長賞を獲得しました。昨年同様カレンダーには各部署の皆さんの楽しい写真を添えて作成します。

来年も新しい医療安全標語を呼称して、職員一丸となって医療安全に取り組みましょう。

令和3年医療安全標語



省く手順 欠かす確認 油断と過信は事故のもと
それ違ふ 言える勇気と聞く心 みんなで作ろう 安全文化
手間一つ 確認作業で 防ぐ事故
グッドジョブ 気付いた仲間に ありがとう
違和感を 感じた心に 正直に
安全は焦らず、急がず、手を抜かず
いつものこと その過信が 事故をうむ
「説明した」 伝わらなければ、独り言
焦らない 心のゆとりで守れる安全
思いやる 心が見つかる 危険予知
報連相 チームプレーで 事故防止
おかしいな 思った時に 再確認

1年目フォローアップ研修

研究所附属病院 事務部 栗原 玲音

10月22日(木)に、入職1年目の6ヵ月フォローアップ研修がありました。この研修では入職からの半年間を振り返り、各自の仕事の課題を明確にすること、仕事の基礎を再確認すること、また新人研修で見学のできなかつた創和会施設・関連企業への見学というプログラムでした。

午前中は研究所附属病院でグループワークを行ない、同期の皆と半年間を振り返り今の自分たちの強みと弱みを整理し模造紙に書き出し、発表を行ないました。職種によって違う悩みや達成感があり、それぞれに意見を出し合い、今ある強みはさらに伸ばし、弱みは意見を出し合い解決策を考えました。

午後からは創和会施設・関連企業の見学の予定でしたが、あいにくの雨で重井薬用植物園への見



▲グループワークの様子

学は中止となり、研究所附属病院で片岡園長からスライド等を使っての説明を聞くことができました。その後は、昆虫館・はぁもにい倉敷の見学に行きました。

最後に、各部署の先輩方から温かいメッセージをいただき、とても感動したとともに、これからもっと頑張らないといけないと気を引き締めるきっかけになりました。

今年は新型コロナウイルスの影響で各種イベントが中止になり、同期のみんなとなかなか話す機会もなく半年がたってしまいましたが、今回の研修で集まって仲良く歓談したりすることができ、少しずつ仲が深まってきたと思います。

より一層気を引き締めて、これからも頑張っていきたいと思います。

しげい病院 ホッ！とスポット

～本館1階総合受付横の水槽に生息するエビの謎～

今日はしげい病院ホッ！とスポットにもなっている本館1階総合受付横の水槽について話をしようと思います。業者が入っているわけではなく、代々の工務係が世話をしています。このホッ！とスポットの紹介文は「水槽いっぱい広がる緑がきれいな水草は、なんと1つの株からできています。よく見ると小さな魚やエビがいます。」となっています。この水槽はいつからここにあるのでしょうか？

始まりは20年くらい前、ノストラダムスの大予言が外れ、恐怖の大王から人類が生き残ったところに遡ります。東京でのホスピタルショー展示会場で一目惚れした院長(現理事長)が、専務と常務に了解を取ってその場で購入を決めたものでした。当時は水草が小さく、沢山の魚が泳いでいるものでした。

時は流れ令和2年。時間の流れとともに生態系の変化が起きました。時間とともに水草が大きくなり成長しました。魚やエビは世代交代を繰り返し、そしてある日、魚がいなくなり、水槽の中にはエ



探してみてね！

ビだけが生き残りました。新しい魚が入れられることもありましたが、しかし、いつの間にかいなくなり、エビだけが生き残るのです。世話をしていたスタッフも世代交代を繰り返し、定年退職でいつの間にかいなくなりましたが、エビだけは生き残るのです。

エビの寿命は2年程度と言われていることから、人間の寿命に換算して考えると、この水槽の中では800年くらい経過しているのです。すごいですね！
(松田)

ツナガル！トマト銀行 6時間リモートマラソン

～「ベストフォト賞」を受賞!!～

研究所附属病院 薬剤部 藤雄 万里衣

気が付けば季節は秋に突入し、マラソンのシーズンとなりました。

新型コロナの影響で中止となる大会も多くありますが、例年のリレーマラソンに代わり今年リモートマラソンが開催されることになり、10月18日（日）にチームマラソンの部に7人で参加してきました。

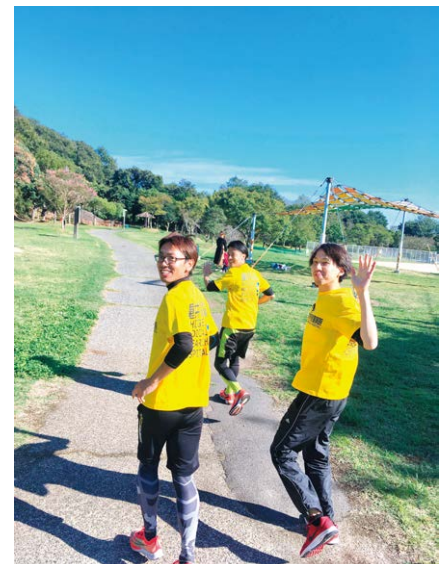
いつもであれば競技場での開催ですが、リモートマラソンはスマートフォンのGPSを利用し、好きな場所からの参加ができるので、私たちは研究所附属病院横の山田グリーンパークで走ることにしました。コロナ禍で家と職場を往復する日々の中で、8カ月ぶりに参加するイベント！参加者全員がずっと心待ちにしていました。

待ちに待った当日は朝早くからの集合でしたが、マラソンがスタートしてからはあっという間で、6時間かけてチーム合計54.6kmを走ることができました。入賞はできませんでしたが、休憩

中には応援しあたりおしゃべりをしたり。もちろんソーシャルディスタンスなどの感染対策も気かけながらの参加ではありましたが、とても楽しい1日でした。

また、マラソンと並行して大会参加中の写真を使ったフォトコンテストも開催されており、なんと！「ベストフォト賞」を受賞することができました。院内マラソン部のTシャツを着ていたので、フォトコンテストを通じて病院のアピールもできたのではないかと思います。

今年は院内レクリエーションやうらじゃ、学会など色々なものが中止になり、業務以外での人の関わりが希薄となっていますが、やはり“業務外で仲間に出会うのは特別なものがあるなあ”と改めて感じられる1日となりました。



■ ■ 確し物案内 ■ ■

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「木の葉時雨の里山を楽しむ」

日時：12月6日（日）10：00～12：00

会場：重井薬用植物園

編集後記

●今年も残すところあと1か月になりました。新型コロナウイルスと共にあった1年間でしたね。目に見えない敵と戦わなければならない、不安を抱えながらの毎日。ゴールの見えないマラソンは苦しいものです。しかし、外出を控えることで、家族の絆が深まった人、この機会に興味や習い事、スポーツなどを始めた人も多くいると聞きます。窮屈な環境の中でも、私たちは発想を転換し、新たな道を切り開く力が備わっているのだ、と思いました。これからクリスマス、お正月など、年末年始は大きなイベントがあります。皆さん、今年はどう過ごしますか??

(S F)

●あっという間に今年も終わりが近づいてきました。今年度は新型コロナウイルスで慌ただしく始まり、例年とは違う「日常」を送りながら、今もその終わりはなかなか見えません。インフルエンザ流行期にも入り、より一層気を引き締めて体調管理に気を付けて過ごさないといけないと感じています。できる事はまだまだ限られていますがそれでも少しずつ緩和されてきましたね。早く今までの（今まで通りとまではいかないかもしれませんが…）「日常」が戻ってくるよう感染対策など今自分ができる事を行ないたいと思います。今年も残りわずかですが良い年を迎えられるよう残りの業務に励んでいきたいと思えます。

(K R)

岡山県病院協会 優良職員表彰 おめでとうございます

今年の岡山県病院協会 優良職員表彰は、創和会からは以下の7名の方が受賞されました。



●しげい病院



●研究所附属病院



医療法人 創和会

生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に



Instagram
はじめました！
shigei-hospital

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所
〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20
TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207